第68回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会に参加して

開催日　令和6年9月7日
場　所　札幌市カナモトホール
伊達はまなす会
松井　夏美

秋晴れに恵まれた大会は、お揃いのピンクのTシャツを着た札母連の皆さまに暖かく迎えられ、オープニング演奏にも癒されました。

開会式に続き、「ひとり親家庭等への支援施策について」の行政説明があり、研修討議では各地区代表の7名が熱い思いを語って下さいました。

母子だけではなく、今まで声を上げて来なかった寡婦の貧困問題の実情に対しての対策を考えて行かなければと強く思いました。又、ひとり親としてただ突っ走って生きて行かなくてはと思っていた自分に、子どもに趣味を持たせたり、自身も押し活などで楽しむ姿を子どもに見せることで、子どもが安心できるような親になりたいと思いました。又、共同親権についての討論では、DV被害者の子どもの話を聞き涙が出そうになりましたが、共同親権が成立してしまった今、加害者に都合の良い使われ方を何としても阻止しなければと思いました。コーディネーターの北海道大学大学院の松本伊智朗先生のお言葉の中に、貧困の子どもを思いやる気持ちが伝わり感動しました。

一日日程ではありましたが、今後の活動に生かしていきたいと強く感じた大会になりました。

行政説明　子ども家庭庁支援局
家庭福祉課　竹内宏和課長補佐

研修討議　７名の各地区代表

令和6年度全国母子寡婦研修大会に参加して

開催日　令和6年10月27日
場　所　富山県民会館ホール
旭川市母子福祉連合会
梶原　美紀

大会へは道母連から11名参加。当日の午後から行なわれ、開会式、行政説明へと続きました。子ども家庭庁の室長より「ひとり親家庭等への支援策」について改定箇所を主としての説明があり、子育てや就業、経済的支援と盛りだくさんの内容でした。討議の中でも「情報の貧困」という言葉が聞かれましたが、支援を必要としている人に周知するにはまだまだ課題があるように思いました。

研修討議では6地区の代表の発表でした。それぞれの実体験ならではの深い内容で素晴らしかったです。札母連から共同親権についての発表があり、DVの父親から逃れた子の意見が代読されましたが、当事者の言葉が胸に刺さりました。本大会においては子どもの利益が最優先されるように関係機関に要望する内容の内の一つとして決議されました。

少子化や会員の高齢化等により、全国的に会員が減少傾向ではありますが、会員同士のつながりや支え合いの大切さ、当事者団体としての役割を改めて実感した大会参加となりました。

最後に年始の震災、9月の豪雨災害と大変な状況の中、大会開催に尽力して下さった関係者の皆様にお見舞いと感謝申し上げます。

研修討議　東北・北海道地区代表の札母連の溝江さん（左端）

道母連から参加の皆さん